50年以上も溶接に携わるベテランの先代と、若手ながら20年のキャリアを持つ現代表。2人の職人が機械を使いこなし、精度の高い多種多彩溶接を実現

「鐵のまち 九条」の若手後継者によるてづくり工場組合では、鉄の良さを伝える自社商品で九条をアピールする「カンバンまちfactory」プロジェクトも展開

テーマにしたんですが、そのために『MOBIO-Cafe』のセミナーに通って勉強し、努力も怠らないようにしています。

柊谷　僕はやっぱり「想い」ですね。月1回、忙しいなか時間を取ってプロジェクトも並行してやっているので、そこで壁に当たったときどこに立ち返るかといえば、やはり「共に学び、共に成長する」と「九条を盛り上げる」ということ。それと製造業が減るのを食い止めたいという気持ちを共有できないと、続けていくのは難しい。

高満　私は世界のものづくりの課題、町工場の課題はネットワークを組めば解決できると考えています。研究者やベンチャー企業が困っている課題に対して、町工場が一緒に形にしていく意味を実感して欲しい。単に部品をつくるのではなく、自社の技術力が結果として社会貢献になることの意味を、経営者だけでなく社員も含めて共有することが絶対に必要。その想いだけはブレないようにしたい。そうやって試行錯誤を繰り返しながら、いいチームをつくっていくことが大切だと思います。

ものづくりの楽しさを伝えることも
次世代への大きな布石。

高満　今後の展開としては成果を出して結果を残すことで、「いいな」と思ってくれる人を増やすのが課題ですね。そのなかで金銭面に関しても私がマネージメントしながらベンチャーさんに掛けあって対価をしっかり払い、利益の出る仕事として受けられるようにしたい。

中橋　地域貢献もされていますよね。地元のイベントにも出展したり。

高満　子どもに向けての工場見学ツアーをやりたいんです。先日も近くの小学校でものづくり教室を開催しましたが、何が嬉しいって子どもたちが眼を輝かせて「すげぇ!」と言ってくれること。「すげぇ!」＝興味を持ってくれることで、私たちの価値も分かってくれると。今、子どもたちは欲しいものに対して「買う」という選択肢しかない。そこに「つくる」という選択肢もあり、そして手伝ってくれる町工場がすぐ近くにあるんだよと伝えたい。「こういうのをつくりたいけど、どうすればいいの?」といつでも聞けるような関係性を取り戻したい。昔はありましたよね?

柊谷　ありました。うちは溶接だから「自転車のパーツが取れたから付けて」と近所の子がよく来ていました。相談するだけの関係でもいいと思っていて。僕たちも地元の小学生対象に、鉄の廃材をハンマーで叩いて模様をつけ、メダルにするというワークショップを開催したのですが、子どもって夢中になってつくりますからね。

高満　それは面白いね。

柊谷　「もっとつくりたい」という声も多かったので、余った廃材をあげようと「欲しい人いる?」って聞いたら、全員が「ハイ!」って手を上げたんです。僕らからすればただの廃材が、彼らには大切なものになった。もう素直に嬉しくて、「つくる楽しさ」って伝わると実感しました。今回は小学生対象でしたが、中・高・大学、芸術系大学とステップアップすれば完成度も上がるだろうし。これは町工場による次世代へのものづくりの取組みでもある。そういうことを伝えられたらもっと楽しいだろうなって。

中橋　私は元営業マンなので数字にこだわりたい。目標はメンバーを80人まで増やしたい。その規模になると今までのように自分だけでは厳しいので、グループとしての二次成長も考えたいですね。そこまでは突っ走って行きたい。グループの課題としては相互理解。私は全員の工場を回っていますが、ほかのメンバーはできていない。商工会議所のネットワークシートのようなものを作成して記入してもらい、プレゼン大会をして互いの仕事内容を理解できるようなものをやっていく必要があると思っています。

柊谷　僕は「鐵のまち 九条」のブランディングを頑張って、「ものづくりといえば九条」と言われるくらいにしたい。その大きな目標へ辿り着くまでにも、いくつかの小さな目標があって、そのひとつが「カンバンまちfactory」というプロジェクト。クリエイターさんにも協力いただきながら、いろんな店の看板を鉄にこだわって各社で製造・販売しながら、九条をアピールしていきます。それを2025年に大阪で開催される「日本国際博覧会」で、パビリオンの看板に使ってもらうことを目標に掲げています。

中橋　大きく出ましたね。それはぜひ達成して欲しい。

高満　実現したら凄いですよね。私たちの目標はまず「成果」を出すこと。今はもうそのフェーズまできている。そのひとつとして日本財団の「海底探査技術開発プロジェクト（DeSET PROJECT）」の開発チームに参加しています。2030年までに海底地図の高精細化を目標に、技術開発をするチームに対して、5,000万円の研究開発助成をおこなうプロジェクトです。海洋調査の完全な洋上無人化を実現する調査ソリューションの開発を目的に、研究者と町工場がチームを組んでさまざまな実装実験をおこないます。

柊谷　夢のある話ですね。

高満　もちろん私たちだけではつくれないので、さまざまな町工場の技術を集結させて進めていく予定です。

モビトーク | 編集後記

対談終了後、「Garage Minato（ガレージ ミナト）」さんが地元企業との連携により作製された新しいタイプのバッティングティースタンドを見せて頂きました。従来品が持つ課題をクリアするためのアイデアを出しあい、試行錯誤の末に完成させたものだそうです。珍しいものを見せて頂き、子どものようにドキドキワクワクしたと同時に、技術を持つ方たちが繋がればアイデアを形にすることができるのだと、「連携することの強み」を実感しました。

TODAY'S MEMBER

既成品にはない唯一の刃物を自作。
高度な旋盤技術で小ロットから量産まで対応。

水道部品・バルブ・エルボ、船舶用品など真鍮・砲金の旋盤加工をメインとする中橋製作所。また研いだ感覚や寸法、プログラムの調整も含めて技術が必要とされる、既成品にはない唯一の刃物（バイト）をつくる熟練の技術を今に受け継ぐ。自社で刃物を製作して、既成品の刃物ではできないことをできるようにすることで、工程や加工時間の短縮化を可能にしている。2017年からは、小規模事業主の金属加工ネットワーク「SAW～創～」を立ち上げ、主宰・運営している。

中橋製作所
東大阪市若江東町1-6-9
TEL 06-6725-6864
https://nakahashi1606.jimdo.com/

企業の困りごとをスピーディーに解決。
町工場がもっと輝ける拠点を築く。

2001年の創業以来、他社では困難な精密加工品を積極的に受注することで技術力を高めてきた成光精密。「できないと言わない対応力」を強みに産業用機械のプロトタイプ部品をスピーディーに提供。2018年4月、日本のものづくり企業が叡智を合わせて開発から試作に取り組める場「Garage Minato」をオープンし、研究者・技術者・ベンチャー企業のアイデアや先端技術を実際に製作できる設備を設けている。町工場の技術者が集まり、各種勉強会やプレゼン用のスペースも併設されている。

成光精密株式会社
大阪市港区波除1-4-35
TEL 06-6586-5771
https://www.seikouseimitsu.com/

小規模の強みを活かす「多種多彩溶接」。
対応材質、サイズも幅広くワンストップ対応。

小規模経営ながらも備えている溶接機は4種9台と、中規模溶接工場並みに充実した設備を誇る柊谷熔接所。それぞれの機械の特性を組み合わせることで、精度の高い溶接を実現してきた。「多種多彩溶接」を掲げるように、鉄からアルミ・真鍮・銅までさまざまな素材を幅広く溶接加工することでワンストップ対応できる強みを持ち、若手と熟練の職人による最新技術と伝統の技が合わさることで相乗効果を生み出す。また町工場後継者による、「てづくり工場組合」の活動で地元活性化に尽力している。

柊谷熔接所
大阪市西区九条南3-23-23
TEL 06-6581-1805
http://www.hiragitani-welding.com/

大阪の元気！ものづくり企業 2017年度